

りんごの音符

25



芸術監督の沖澤のどかさん（青森市出身）は、とても気さくな方で、昨年の青い海と森の音楽祭のオーケストラコンサートのリハーサル時に「（のどかさんの）名前似てますよね」と話しかけてくれました。音楽祭メンバーが本場にすぎな方ばかりで、その中で一緒に音楽ができることを幸せに感じます。育ちは神奈川ですが、母の実家が山形にあり、私も生まれは山形。祖母やいとこに会うために山形はよく訪れていて、東北には親近感を持っています。昨年の音楽祭で初めて青森を訪れましたが、何だか懐かしい空気に感じました。

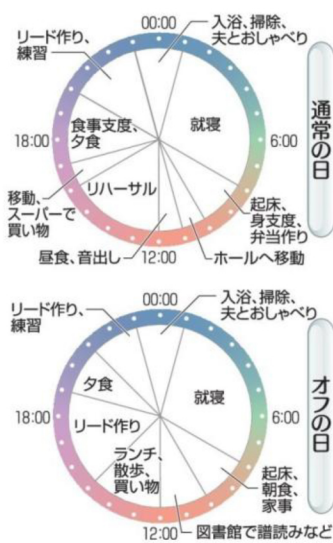
ファゴット 石井 野乃香さん（神奈川県出身）

いつの間にかとりこに

青森でタクシに乗った際、運転手の方が「青森はどんどん人口が減ってさみしい。音楽祭で人がたくさん来るのがうれしい。今後も盛り上げて」と話していたのを覚えています。青森は食も自然も最高なので、この音楽祭が青森の魅力を知ることができて嬉しいです。家族は私以外誰も楽器をやりませ

だから、顧問の先生に「ファゴットをやりなさい」と言われて、めっちゃ泣きました。ファゴットって何？全然知らない、やりたくないって（苦笑）。でもいざ始めてみたら何だか良い音がして、練習すればするほど吹けるようになるのも楽しくて、いつの間にかとりこに。それからオーケス

トラのCDやNHK交響楽団の音楽番組などを聴いて、将来はオーケストラでファゴットを吹きたいと思い、音楽科のある高校へ進学しました。ファゴットはいろいろな役回りがあるところが好きです。例えば、ベートーベンの「第九」第4楽章の天の宙のように美しい対旋律、ショスタコービッチの交響曲第9番のソロの悲痛な叫び、チャイコフスキーの交響曲第4番での哀愁を帯びた響き...あけたらきりがありませんが、さまざまな作曲家がファゴットのた



石井 野乃香さん (Yoshiko Sugahara)

へいしいのか 1995年、神奈川県出身。東京芸術大学音楽学部を卒業後、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団に入団。副首席ファゴット奏者を務めている。第1回日本ファゴットコンクール入賞、第25回コンクール・マロニエ入選。リッカルド・ムーティ「イタリア・オペラ・ある」

アカデミー in 東京、宮崎国際音楽祭などに出演。ティアラ・ウエラ・シムニア オルケストラ講師。関東のオーケストラレーヤーで結成した女性のファゴットアンサンブルグループ「Bloom Bassoon Quartet」のメンバーでもある。



東京シティ・フィルの室内楽コンサートでファゴットを吹く石井さんと夫でクラリネット奏者の須東裕基さん＝2023年7月28日、東京都内

作曲家はこんな人

ブラームス

ブラームスはドイツで生まれ、バッハ、ベートーヴェンと並ぶ大作曲家としても知られ、ドイツ三大Bとも呼ばれています。バッハの対位法とベートー

ーヴェンの主題展開を融合させ、たった一つの小さな動機から楽曲全体を構築する「展開的変容」がブラームスの音楽の特徴です。

ブラームスはバロック時代やルネサンス時代の音楽に対して抱いていた深い造詣に注目し、バッハやシュッツなどの古い楽譜を自ら校訂するほど「歴史家」でもありました。過去の遺産を整理し、自分の中に統合するという極めて知的な作業の上で、ブラームスの音楽が成り立っていたのでしょう。ブラームスの音楽を聴く上での注目

点は、リストやショパンの作品が高音でキラキラさせる音楽であるのに対し、ブラームスはピアノの鍵盤の真ん中あたり（中音域）にこれでもかと3度や6度の和音を詰め込んでいることではないでしょうか。ブラームスはたくさんのジャンルの音楽を作曲し名曲を数多く残しています。交響曲の他に、ピアノ協奏曲、ヴァ

イオリン協奏曲、ピアノ五重奏曲、ドイツ・レクイエム、ハンガリー舞曲、ハイドンの主題による変奏曲、クラヴィア・アシュトゥック（4つのピアノ小品集）、4つの厳粛な歌などがあります。ブラームスの数多くの名曲の中から自分のお気に入りの1曲を探してみてください。はいかがでしょうか。（県吹奏楽連盟監修）

2026年10月31日～11月8日に第2回「青い海と森の音楽祭」が開かれます